

夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議 議事要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第 11 回）
日時	令和元年 7 月 10 日（水）18 時 30 分～20 時 45 分
出席	藤本知香、秋元洋子、井村良英、井土満、唐亀康司、小畑くるみ、進藤祐貴子、安部芳絵、米原立将、石井直行、坂下香澄、佐藤米子、山中ゆう子、栗原一雄、上原明日香、松本零 [事務局]横塚子ども家庭部長、伊藤子育て推進課長、石井、海野 初鹿子ども家庭支援センター長 [株式会社地域計画連合]相羽主任研究員、柳坪主任研究員
欠席	田中史子、畔田世紀子、宮田章子、市村仁、高原麻子、進藤真莉恵、田中美保、齋藤陽璃、小川素直、飯田飛鳥、丹野日和
配布資料	(1) 立川市第 4 次長期総合計画後期基本計画施策体系新旧対照表 (2) 令和 2 年度策定・改定予定とする個別計画一覧（※ 5 月 7 日時点） (3) 第 9 回、10 回の推進会議の意見 (4) 理念・プランの基本的な考え方
会議場所	女性総合センター・アイム 第 2 学習

1. 長期基本計画、個別計画について

- ・事務局より資料 1、2 に基づき説明。

2. 第 4 次夢育て、たちかわ子ども 21 プラン策定について

- ・事務局（コンサルタント）より資料 3、4 に基づき第 4 次プランの骨子の案を説明及び意見交換を行った。

【主な意見】

(1) 「はじめに（理念）」について

- ・「次の世代に向けて子どもにとってより良い環境でバトンタッチしていくために」は「子どもと共に創造していく又は、子どもと一緒に作っていく」にする修正案が出された。
- ・全体的に分かりづらい文章のように感じる。
- ・ダイバーシティ等の考え方など現在にあった発想の文章にするよう意見がでた。

○基本理念は継承し、出された意見を踏まえ表現の修正及び基本的な視点の検討を行う。

(2) 「本プランの基本的な考え方 2. 3つの基本的な視点」について

<視点その 1 >

- ・「等々が立川のすべての～」の「等々」で始まる部分の修正。
- ・「貧困などの有無」とあるが貧困の有無という日本語があるのか、「貧困」には経済的なもの以外に知識量、経験値の差などの貧困もあることや、支援の中に「貧困」という言葉が入ると支援を受けない人がいるのでその様な人も救い上げられるようにしたい等の意見がでた。

○「貧困などの有無」については修正をする。また、貧困の定義等についてはコラムに掲載する。

- ・災害時には特に子どもの権利が奪われがちである。子どもの視点での避難所運営マニュアルがない。また、避難所での子どもたちの活躍が期待できる等の意見がでた。

○災害時における子どもの権利尊重の視点は入れる。

- ・「子どもとは」という囲みは定義になっていない、言葉が少し足りない気がする。「生きて」という言葉はない方がよい等の意見がでた。

○子どもについての表現は再度検討する。

<視点その2>

- ・「親育ち」か「親育て」かについて、子どもを持って親は成長していくと思うし、子育てと言っているのだから、「親育ち」がよい。
- ・言葉としては「親育て」の方がいいのかもしれないが、漢字のニュアンスとして、子育て・親育ちの方が一緒に育っていくように感じる。親育てだとちょっと上から目線等の意見がでた。

○タイトルは現状の通り「親育ち」を採用する。

- ・「親育ち」について（理念）の中で「親への支援」は出ているが「親育ち」という言葉はない。親自身が育っていけるように支えるような表現の追加が必要。我が子ではない子を育てている人を想定されているのだろうか。「親」への、また「子どもを育てている人」へのサポートというのが本当に大事だなという意味で「親育ち」というのをとても大事だなと思う。
- ・血が繋がっている、繋がっていないにもかかわらず、子どもとかかわって、親的な役割を果たしていくようにみんな育っていくのだという認識をみんなで共有したい。関連する施策はNo.136ぐらいであり、推進状況を見る限り、これだけではここで議論していることをカバーすることが難しい。親の荷の背負い方が不公平、時間的貧困を感じる。
- ・親が子どもの権利を学ぶというのは、どこにも入れなくてよいか。子どもの方に権利の学習を入れたのであれば、親の方もしっかりそこを対にして入れ込むとともに、「親育ち」をなぜやるのかというのをもう少し書いた方がよい等の意見がでた。

○「親育ち」の「親」は子育てをしているすべての人であり、その「親」も子どもと一緒に育ち、必要な支援を受けられるような視点を足していく。また、親育ちの議論についてはコラムに残す方向で検討する。

- ・「地域のさまざまな資源を生かし」、「地域の人たちに支えてもらう、新たなあり方を模索しているのは、学校も同じです」、「学校が地域の文化拠点になっていく」とあるが、この点については、立川の教育施策が変わってきているので、ぜひ教育委員会に意見を求めるべき。

○教育施策と照らし合わせて書きぶりを更新する。

<視点その3>

- ・「これまでの自治体の政策は～そのためには、」 歴史的な文章としてすごくよいので残してもよいのではないか。例えば「コラム」の中に以前はこういうことがありました、今は比較的達成されているけれども、こういうふうに戻らないように自戒をしなければいけないとか、入れてはどうか。

○「コラム」で残すよう検討する。

(3)「本プランの基本的な考え方 3. 7つの施策目標」について

- ・長期継続計画の関係で施策目標5「子育てと仕事の両立を支援します」の追加の提案を事務局から説明した。
- ・ 施策目標4では「子育て」がカッコ付きなので、施策目標5もカッコ付きの方がいいと思う。
- ・ 保育施設、保育サービス、学童などを必要とする背景は、仕事だけではない。例えば介護、就学、その他社会生活を営むためにとか、社会との関係をとか、家族関係をとかを保つために保育を必要とすることもある。こういう視点があるのだということはきちんと確認、共有しておきたい。

○施策目標5「子育てと仕事の両立を支援します」を新規に加える。

- ・「親育ち」という文言について、施策目標に入っていない。 施策目標2などに「子育て」はあるが、「親育ち」というのはない。施策に出ない言葉を（はじめにや基本的な視点で）使うというのはどうか。「子育て・親育ち」と全て入れるか。親が子育てをしていく中で育っていくというものを周りがサポートしていくという意味合いだったとすると、確かに入るところがない。あえて重荷を作らないというようなやり方もあるのかなと思う。インパクトをとるか、実を取るか考える必要はある。親に寄り添いながら一緒に育っていくという施策がないのではないか等の意見がでた。

○親育ちの視点でどのような議論がされたのか。なぜこういう書き方にしたのか。あくまでも視点としてということで説明がどこかに分かるように残す方向で事務局にて検討する。

○「貧困対策」については、貧困対策の視点をいろいろな施策にちりばめていくということについては了承を得た。

- ・ 現プランの p.78 に「親育ちについて」というコラムがあるが、子どもの権利とともに、母子手帳等を通じて配布できるとよい（紙を差し込むとか）。

(4) その他

- ・ 計画書を誰にどうやって届けるのが重要。少なくとも「はじめに（理念）」は、A4版1枚にまとめれば子どもでも読めるのではないかな等の意見がでた。

○今後プランの周知等を考えて行く。

(5) 量の見込みについて

- ・量の見込みの算出について、事務局より口頭にて説明を行った。
- ・米原副会長より補足：今回実施した意向調査結果の数字をそのまま使うと現実的な推計結果を得ることが難しい。実際の利用実態や現状と大きくかけ離れた数字を使うというのは、計画としては適切ではないと考えている。現プラン同様、事務局で調整をして原案を作っていく。

3. 市民意向調査の報告書の修正について

- ・事務局より報告書の誤記2か所を修正すること、別冊について個人の特定等に配慮し16か所を修正することの説明を行った。
- ・委員からは、別冊の修正について必要性、妥当性について議論があった。

4. 推進会議委員の改選について

- ・事務局より、募集のお知らせがあった。

5. その他

- ・たまがわ・みらいパーク企画委員会より：たまみらキャラバン隊の報告。今回は多摩川と緑と明かりをテーマにたまみらの紹介、活動及び会員団体の紹介を実施。来場者は600名程度。
- ・チャイルドラインたちかわより：15周年記念公演のお知らせ。市民公開講座で電話の受け手の養成講座が9月15日から開始。また、9月29日は半田勝久氏に子どもの権利についてのお話をして頂く予定。
- ・C³ for Children's Rights：子どもの権利のクリアファイルを作成中。10月配布（自治体シンポ内）を目指す。
- ・自治体シンポジウム：井村委員が第7分科会で子ども・若者支援の取り組みについて発表予定。
- ・第3次プランの取り組み項目の一覧（宿題）：変更が必要であればチェックをし、その理由、意見などを事務局へ回答する。

以上